

放射線科

最先端の画像診断から IVR による低侵襲治療まで

画像診断：

研修医みなさんの希望に応じて、General な急性期の画像診断を広く研鑽したり、頭部・胸部・腹部・骨軟部などの専門に特化した画像診断を修得したりするなど、いろいろな選択肢があります。

Interventional Radiology (IVR)：

診断から治療、血管系から非血管系 IVR まで幅広く行っており、希望者は助手（症例によっては術者）として参加できます。



<教授からのコメント>

放射線科研修トレーニングの最も大きな特色は、過去 20 年間にわたって蓄積された臨床画像症例を瞬時に呼び出せる画像読影システムを利用して、時間を越えて（過去にさかのぼって）、重要症例の読影トレーニングをいつでも行えることで、研修医の“経験値”を短期間で格段に高めることができます。臨床現場や学会発表においても若手放射線科医が活躍できるのもこのような背景があるものと思います。



【 研修目標 】

- ① 画像診断の基本的知識と読影法を身につける。
- ② 当直で必要な急性期疾患の診断ができる。
- ③ IVR の基本的手技を修得する。

【 研修内容・研修スケジュール例 】

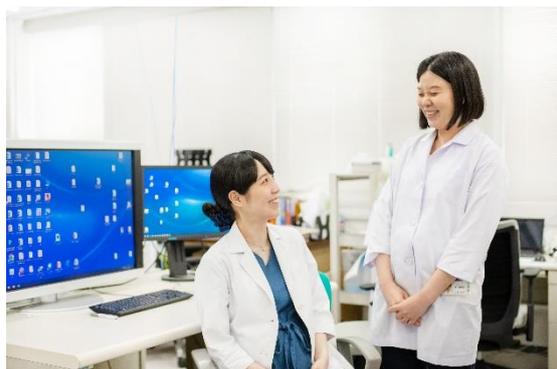
Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat/Sun
画像診断 症例カンファ	画像診断 IVR	画像診断 IVR	画像診断	画像診断 症例カンファ	Free

【 指導医からのコメント 】

CT や MRI などの画像診断機器の発展に伴い、各種疾患の診断能向上はめざましいものがあります。逆に言えば、現在ではこれらの画像診断なくして正確な診断は不可能と言えます。放射線科では最先端の画像テクノロジーを駆使して、それぞれの分野の専門家たちが頭からつま先までさまざまな疾患の診断を行っています。満足できる研修カリキュラムを用意してお待ちしています。

【 先輩(若手医師)からのコメント 】

私は臨床初期研修 2 年目の選択期間に放射線科を選択し、画像診断の面白さにひかれて入局しました。選択したきっかけは 1 年目の外病院当直時やカンファレンス前に、あまりにも画像が読めないの、「どうにかしなくては！」と痛感したことです。放射線科をまわってみると、先生方がやさしく、質問すると必ず丁寧に教えてくださるため、自然に勉強したいという意欲がわいてきました。大学には各領域の specialist の先生方がいらっしゃるの、本だけでは学べない多くのことを学ぶことができます。少しでも興味を持った方、画像を読むのに抵抗がある方はぜひ放射線科を選択してみてください。



【 お問い合わせ先 】

山口大学大学院医学系研究科 放射線医学 担当：田辺昌寛（医局長）

Tel/Fax : 0836-22-2285

E-mail : radiants@yamaguchi-u.ac.jp

Website : <http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~radiants/>